

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与								
【年度計画】 (4館共通) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 2) 文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 (東京国立博物館) 1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。 2) 海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する(海外交流展出品作品を含む)。 3) 地方公共団体の博物館等に収蔵品を貸与するとともに文化財活用センターと連携し、地方への貸与を促進する。									
担当部課	学芸研究部列品管理課 文化財活用センター貸与促進担当	事業責任者	課長 救仁郷秀明						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 国内の博物館等162機関に1,225件の作品を貸与した。 2) 文化財活用センターと東京国立博物館は共同で東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施した。国内の博物館等6機関に61件の作品を貸与した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 松山市考古館、徳島市立考古資料館と協力して、考古資料の相互貸借を実施した。 (東京国立博物館) 1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。 2) 海外の博物館等11機関に130件の作品を貸与した。 3) 文化財活用センターと共同で東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施し、6機関に61件の作品を貸与した。									
【補足事項】 (4館共通) 2) 大阪歴史博物館「没後130年 なにわ人物誌 堀田龍之助―幕末・近代の大阪に生きた博物学者―」(会期:4月25日～6月18日)に3件、斎宮歴史博物館「斎宮のまわりにも魅力がいっぱい―斎宮で自由研究②―」(会期:7月14日～9月2日)に1件、彦根城博物館「長曾祢虎徹―新刀随一の匠―」(会期:10月26日～11月25日)に5件、大分県立美術館「国宝、日本の美をめぐる―東京国立博物館名品展」(会期:11月2日～11月25日)に44件、堺市博物館「堺・経典をめぐる文化史」(会期:11月17日～12月16日)に2件、板橋区立郷土資料館「再発見!いたばしの遺跡―いたばしの旧石器時代・縄文時代―」(会期:31年1月19日～3月24日)に6件を貸与した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 当館では、考古資料相互貸借事業として、松山市考古館に43件、徳島市立考古資料館に26件貸与し、松山市考古館から42件、徳島市立考古資料館から18件借用した。借用品により、特集「徳島・松山の考古学」(会期:11月6日～12月25日)を開催した。 (東京国立博物館) 2) ロシア・プーシキン美術館「江戸美術名品展」に78件、連合王国・ウェールズ国立博物館「今・昔―日本のアート&デザイン」に18件、パリ日本文化会館「縄文―日本における美の誕生」展に14件を貸与したことをはじめ、釜山市広域市立博物館に6件、アメリカ・メトロポリタン美術館に5件、大韓民国・国立中央博物館に2件、上海博物館に2件、パリ市立ブティ・パレ美術館に1件、同・チェルヌスキ美術館に1件、スイス・リートベルグ美術館に1件を貸与した。 3) 当館収蔵品貸与促進事業として、大分県立美術館「国宝、日本の美をめぐる―東京国立博物館名品展」に44件を貸与したことをはじめ、板橋区立郷土資料館「再発見!いたばしの遺跡―いたばしの旧石器時代・縄文時代―」に6件、彦根城博物館「長曾祢虎徹―新刀随一の匠―」に5件、大阪歴史博物館「没後130年 なにわ人物誌 堀田龍之助―幕末・近代の大阪に生きた博物学者―」に3件、堺市博物館に2件、斎宮歴史博物館に1件を貸与した。									
【定量的評価】	項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
	貸与件数	1,355件	-	-	年	1,130	991	946	914
	うち国内の貸与件数	1,225件	-	-	変	1,059	909	750	783
	うち国外の貸与件数	130件	-	-	化	71	82	196	131
【年度計画に対する総合評価】	評定: S	【判定根拠、課題と対応】 国内外の博物館等173機関に1,355件の作品を貸与し、貸与件数は近年の実績を大きく上回った。29年度は東京国立博物館単独で試行として実施した貸与促進事業を、30年度7月の文化財活用センター発足に伴い、センターと当館の共同で取り組み、公募による実施施設の選定を行った。事業発足2年目にもかかわらず、多くの申請があり、29年度を大幅に上回る件数の作品を貸与することができた。							
【中期計画記載事項】 収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。									
【中期計画に対する評価】	評定: S	【判定根拠、課題と対応】 内外の博物館等の要請に応じて、過去5年で最も多くの作品貸与を実施することができた。貸与件数は近年減少傾向にあったが、30年度は著しく増加した。また、29年度の貸与促進事業の実施対象施設が東北地方(福島県、秋田県)の施設2か所にとどまったのに対し、30年度の実施対象施設は、東京都、滋賀県、三重県、大阪府、大分県と、地域的に大きく広がり、国内の博物館等の展示の充実に寄与することができた。引き続き、31年度以降も内外の有意義な展覧会に貸与を実施し、国内外の博物館活動に対して重要な寄与を果たしていく予定である。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与							
【年度計画】 (4館共通) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 羽田聡					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 国内外あわせ80機関（機関は延べ件数）に対し、計289件の収蔵品・寄託品貸与を行った。 収蔵品の貸与件数：136件 寄託品の貸与件数：153件 計：289件								
【補足事項】 1) 収蔵品の貸与に際しては、貸出先施設の保管体制、警備体制、虫害対策等を総合的に判断しながら先方の要望に応じた。 具体的な例として、国内では東京国立博物館の特別展「顔真卿 王羲之を超えた名筆」展に「国宝 金剛般若経開題残巻」（当館蔵）を含む国宝3件、重文3件の収蔵品・寄託品貸与を行った。 また、海外では国際交流基金等主催の海外展に、「国宝 風神雷神図屏風」（建仁寺蔵）等をはじめ、日本文化を代表する文化財を貸与した。また、ワシントン条約による輸出規制がある中で、作品のコンディションを十分に考慮したうえ、象牙軸の交換を行う等の対策を講じ積極的に要望に応じた。								
								
「国宝 金剛般若経開題残巻」（部分） 特別展「顔真卿 王羲之を超えた名筆」展（東京国立博物館）貸与品								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
貸与件数	289件	-	-		582	303	367	349
うち国内の貸与件数	274件	-	-		570	293	365	336
うち国外の貸与件数	15件	-	-		12	10	2	13
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品の保存状況と貸出先のコンディションを勘案しながら、国宝・重要文化財を含む収蔵品・寄託品を国内の博物館を中心に貸与を実施した。海外への貸与についても十分に審議を重ねた上で日本文化を代表する海外でも著名な収蔵品の貸与を行った。31年度も引き続き、先方の要請に可能な範囲で応じていく予定である。							
【中期計画記載事項】 収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品の保管・展示状況と貸出先のコンディションを勘案しながら先方の要請に適切に応じた。新規貸与先については、貸与施設の展示・保管環境等を十分に考慮したうえで可能な範囲で要請に応じた。海外についても、十分に審議を重ねた上で収蔵品の貸与を行い、日本文化の発信に寄与した。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与							
【年度計画】 (4館共通) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 内藤栄					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 収蔵品と寄託品を国内合わせて35の機関に計134件の貸出を行った。 2) 文化財活用センターに当館の列品貸与窓口、貸借規定等の情報を提供し、スムーズな収蔵品貸与が促進されるよう準備を行った。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 大分県立歴史博物館、群馬県立歴史博物館、市立五條文化博物館の計3館との間で考古資料の相互貸借事業を実施した。								
【補足事項】 (4館共通) 1) 収蔵品・寄託品の貸与 ・貸与先35機関の内訳 国立4件、公立16件、私立11件、海外4件 ・貸与作品134件の内訳(国内109件、国外25件) 国宝6件(館蔵品2件、寄託品4件) 重要文化財32件(館蔵品15件、寄託品17件) その他96件(館蔵品67件、寄託品29件) 貸与した館蔵品84件の内訳 (絵画25件、彫刻15件、書跡2件、工芸9件、考古33件) 貸与した寄託品50件の内訳 (絵画24件、彫刻14件、書跡3件、工芸1件、考古8件) (東京国立博物館・奈良国立博物館) 相互貸借事業における貸与・借用品数 ・大分県立歴史博物館 館蔵品11件(大分県内出土の埴仏、瓦、経筒等)が特集展示「おおいたの考古遺産里帰り展－奈良国立博物館所蔵資料－」で展示された 借用品9件(大分県内出土の瓦、土器、金銅仏など)を当館の名品展考古部門の展示で活用 ・群馬県立歴史博物館 館蔵品6件(白山古墳出土の刀、鏃、銅碗、和同開珎)が第6回テーマ展「塚廻りの埴輪」にて展示された 借用品7件(群馬県内出土の埴輪、石製模造品)を当館の名品展考古部門の展示で活用 ・市立五條文化博物館 館蔵品1件(五條猫塚古墳出土品計22点)が夏季特別展「五條猫塚古墳 発掘60年」にて展示された 借用品5件(縄文土器2点、弥生土器7点)を当館の名品展考古部門の展示で活用								
								
貸与品：国宝 伝教大師筆尺牘 弘仁四年十一月廿五日 一幅 館蔵品								
【定量的評価】	項目	30年度実績	目標値	評価	26	27	28	29
貸与件数		134件	-	-	149	145	165	210
うち国内の貸与件数		109件	-	-	149	137	161	205
うち国外の貸与件数		25件	-	-	0	8	4	5
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：B		30年度も作品の貸与実績は良好であり、国内外の展覧会に大きく貢献することができた。また、考古資料の相互貸借事業を継続して実施し、各地域で生まれた文化財を「里帰り」させることができた。						
【中期計画記載事項】 収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。								
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：B		中期計画に基づき、作品のコンディションや相手博物館のニーズ等を勘案して慎重かつ柔軟な対応を行い、国内外の展覧会の成功と充実に貢献することができた。特に30年度は例年に比べ海外への貸与件数が多く、国際的に協力することができたといえる。貸与の件数も相応であり、中期計画の進展は順調である。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与							
【年度計画】 (4館共通) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。								
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 原田あゆみ					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 国内33機関に収蔵品および寄託品を貸与した。 (機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。)								
【補足事項】 (九州国立博物館) 国内の貸与先機関は、下記の通りである。 ・国および国立機関 文化庁※、東京国立博物館※、京都国立博物館※、奈良国立博物館 ・地方公共団体及び公立博物館・美術館 (福岡県内) 九州歴史資料館※、甘木市歴史資料館、伊都国歴史博物館、小郡市埋蔵文化財センター、求菩提資料館、北九州市立小倉城庭園、福岡市博物館、大野城心のふるさと館、太宰府市文化ふれあい館 (福岡県外) 唐津市近代図書館、愛知県陶磁美術館、青森県立美術館、熊本県立美術館、島根県立美術館、神奈川県立金沢文庫、大分市美術館、都城島津邸、大阪府立近つ飛鳥博物館、山口県立美術館、岡山県立美術館、福島県立美術館 ・私立博物館・美術館及び私立団体 公益財団法人古都大宰府保存協会大宰府展示館、サントリー美術館、三井記念美術館、MOA美術館 (※印は29年度から30年度にかけて貸与)								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
貸与件数	80件	-	-		101	90	83	71
うち国内の貸与件数	80件	-	-	変	89	88	72	67
うち国外の貸与件数	0件	-	-	化	12	2	11	4
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 公私立の博物館等の要請に対し、適切に貸与を実施した。							
【中期計画記載事項】 収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 要請先施設の状況を総合的に勘案して、適切に貸与を実施し、公私立博物館等の展示の充実に寄与することができた。31年度以降も、国内外の博物館の展覧会への貸与を積極的に協力する。							

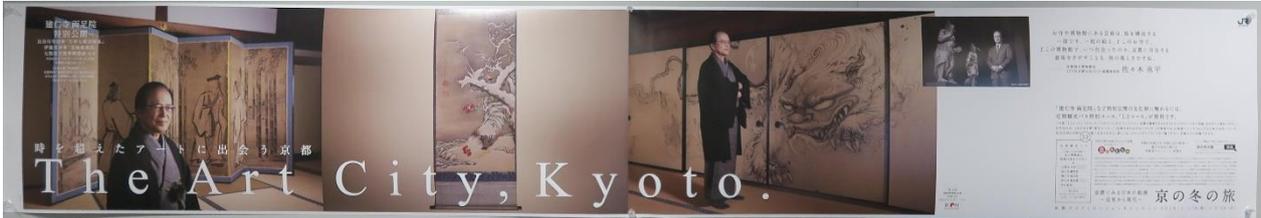


サントリー美術館
「琉球 美の宝庫」展出品
花鳥図巻

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(5) ②国内外の博物館等への援助・助言等							
【年度計画】 (4館共通) 2) 博物館・美術館および寺社等における展示・収蔵の安全対策に関する助言、研修会等を通じた啓発を行い、文化財等防災に貢献する。								
担当部課	東京国立博物館学芸研究部 京都国立博物館学芸部 文化財防災ネットワーク推進本部 本部事務局文化財防災ネットワーク推進室	事業責任者	部長 田沢裕賀 部長 朝賀浩 室長 岡田健					
【実績・成果】※ [] 内は、実施担当の施設・部署を表す。 (4館共通) 2) 本事業は、博物館・美術館および寺社等における有効な安全対策を体系的に把握し、その成果をもとに国内外の博物館等への啓発を行うことを目指しており、30年度はそのための基礎情報の収集に着手し、多くの成果をあげることができた。 a. 東京国立博物館の海外展及び総合文化展における展示業務を中心として、博物館・美術館における展示・収蔵の安全対策に関する調査を行った。[東京国立博物館] ・支持具に関する調査(4件) 東洋考古・東洋陶磁作品の支持具製作に伴う採寸調査、支持具改善に向けた埴輪重量計測等(東京国立博物館) ・展示設備の製品及び技術に関する調査(12件) 展示ケース製造工場見学・検品立会い(ドイツ・フランクフルト)、「親と子のギャラリー トーハク×びじゅチューン! なりきり日本美術館」使用音響機器確認(東京国立博物館)、「縄文」展展示ケース協議(フランス・パリ日本文化会館)、新設博物館における設備の安全対策調査(国立アイヌ民族博物館設立準備室)等 ・展示作業および手法に関する調査(3件) 「縄文」展展示作品輸送時の振動計測(フランス・パリ日本文化会館)等 ・収蔵空間における安全対策の調査(3件) 博物館施設内の収蔵庫を調査し、基本的な安全対策の仕様を分類・整理(東京国立博物館) ・被災事例に関する情報収集(2件) 北海道胆振東部地震による博物館被害と、その後の対応等に関する調査(北海道博物館)等 ・博物館・美術館における展示・収蔵の安全対策に関する協議会(第1回)(31年2月26日) 会場: 東京国立博物館、対象: 展示・収蔵設備メーカー、美術品梱包輸送会社等、参加者数: 27人 b. 社寺等における収蔵文化財の安全対策に関する調査を行った。[京都国立博物館] ・免震台の適切な活用と転倒防止策等の調査研究のため、三次元計測用スキャナーにより立体作品の重心位置を算出し、京都市消防局の協力を得て起震車を使用し、振動計測とともにデータ解析・シミュレーションを行った(実施回数: 2回)。 ・社寺における文化財の安全対策に関する聞き取り調査を行った(9月、於: 清浄華院)。								
【補足事項】								
								
支持具改善に向けた埴輪採寸 担当: 東京国立博物館			起震車を使用した振動計測実験 担当: 京都国立博物館					
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
援助・助言等の件数	2件	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定: B			【判定根拠、課題と対応】 情報収集の方法等、試行錯誤の段階であり、専門機関との連携構築を含め、年度計画の一年目として研究の基盤を作ることができた。					
【中期計画記載事項】 国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。								
【中期計画に対する評価】 評定: B			【判定根拠、課題と対応】 30年度は、基礎情報の収集に着手した段階であり、関係専門機関等との協議会を一回開催するにとどまった。国内外の博物館等に対する専門的・技術的な援助・助言を行い、社寺等の収蔵環境における実践的な対策の提案に至るために、31年度も引き続き調査研究を進める。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(5) ②国内外の博物館等への援助・助言等							
【年度計画】 (文化財活用センター・4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。								
担当部課	本部文化財活用センター	事業責任者	副センター長 小林牧					
【実績・成果】 (文化財活用センター・4館共通) 1) イ 公私立博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言 20件 ・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力 17件 文化庁、内閣府、独立行政法人日本芸術文化振興会、一般社団法人文化財保存修復学会、日本文化財科学会、全国都道府県在京文教担当者連絡協議会他 ・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言 1件 大分県立美術館 ・講演・セミナー・審査等での協力 1件 独立行政法人日本芸術文化振興会 ・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言 1件 三菱一号館美術館 ロ 平成31年度東京国立博物館収蔵品（キリシタン関係遺品）貸与促進事業実施対象館募集による新規応募館に対する文化財管理、保存体制についての評価を実施し、具体的な保存環境調査に着手した（1件）。								
【補足事項】								
								
全国都道府県在京文教担当者連絡協議会の研修事業への協力（10月11日）								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
援助・助言等の件数	20件	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 全国の公私立博物館・美術館等からの要請に応じて、専門的な援助・助言を行った。また、収蔵品貸与促進事業の新規応募館の資料保存や防災、防犯体制について書類による評価を行い、審査に際して見解を表明した。31年度は、引き続きこうした援助・助言に取り組むとともに、収蔵品貸与促進事業の貸与予定館の環境調査と必要に応じた現地調査、改善協力を行う。							
【中期計画記載事項】 国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財活用センターの初年度の活動として、公私立博物館・美術館等に対する各種の援助・助言や東京国立博物館収蔵品貸与促進事業応募館の環境審査等を適切に行い、順調に事業を進めることができた。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(5) ②国内外の博物館等への援助・助言等							
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (東京国立博物館) 1) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。								
担当部課	学芸研究部 総務部	事業責任者	部長 田沢裕賀 部長 山下登					
【実績・成果】 1) 公私立博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、131件の援助・助言を行った。 ・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力 40件 文化庁、板橋区美術館、サントリー美術館、京都市美術館、国立アイヌ博物館他 ・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言 11件 韓国国立現代美術館、独立行政法人日本芸術文化振興会、ルーヴル・アブダビ、 アフガニスタンバーミヤン考古学研究所他 ・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導 23件 東京藝術大学大学院、宮内庁三の丸尚蔵館、法隆寺、山種美術館他 ・講演・セミナー・審査等での協力 37件 文化庁、国立故宫博物院（台北）、ロシアプーシキン美術館、下関市考古博物館、松山市考古館、 東北大学他 ・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言 20件 故宫博物院（北京）、ルーヴル美術館、佐賀城本丸歴史館、江戸東京博物館、三菱一号館美術館、 茨城県陶芸美術館他 (東京国立博物館) 1) 新規貸与館に対する環境調査を実施し、指導助言を行った。 環境調査を実施した新規貸与館は、17館。								
【定量的評価】 項目	30年度実績	目標値	評定	経年 変化	26	27	28	29
援助・助言等の件数	131件	-	-		119	139	120	138
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 国内・海外問わず公私立博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、131件の援助・助言を行った。また、新規貸与館に対する環境調査を17館に対して行った。いずれも内容・質ともに適切に実施し、年度計画を順調に達成することができた。							
【中期計画記載事項】 国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間の3年目として、国内外の博物館等からの要請に応じて適切に専門的・技術的な援助・助言を行い、他の博物館との情報交換や関係性の強化に努めた。31年度以降も引き続き、可能な限り国内外の博物館等からの要請に積極的に応じていきたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与 ②国内外の博物館等への援助・助言等							
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 朝賀浩					
【実績・成果】 1) ・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力（各種委員会等の委員としての助言を含む）(59件) ・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言(9件) ・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導(13件) ・講演・セミナー・審査等での協力(58件) ・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言(1件)								
【補足事項】 ・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力 文化庁買取委員など官公庁の各種委員会への助言・協力 京都府、大阪府、滋賀県、三重県などの地方公共団体の文化財保護審議会委員等として助言 祇園山傘連合会、法隆寺金堂壁画保存活用委員会、日本文化財科学会などの各種団体への助言 ICOM京都大会に関連する各種委員会へ委員として協力 ・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言 石川県立美術館、福岡市博物館などの国内の博物館・美術館への展示指導 文化庁、国際交流基金などの海外展への援助 ・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導 野崎家塩業歴史館、鳥取県埋蔵文化財研究センターなどへの調査指導 文化庁、元興寺文化財研究所などへの調査協力 ・講演・セミナー・審査等での協力 文化庁など官公庁主催のセミナー及び研修の講師や京都大学などの大学での非常勤講師として協力 「第53回京の冬の旅」広報及び特別講座講師としての協力 ・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言 九州国立博物館で開催されたICOM-ASPAC開催のための援助、助言。								
 <p style="text-align: center;">「第53回京の冬の旅」ポスター</p>								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
援助・助言等の件数	140件	-	-		29	65	112	168
【年度計画に対する総合評価】 評価：A			【判定根拠、課題と対応】 国内外の様々な機関の要請に応じて、様々な職員がそれぞれの専門性に応じて140件の援助、助言、指導及び協力を行った。特別展や展示の多言語化など業務も多忙ななか、様々な協力要請を本務に支障のない範囲で受け、我が国の文化行政や博物館行政に協力している。なかんずく「第53回京の冬の旅」への佐々木館長の協力は全国展開されたことから、当館の知名度向上にも大きく貢献した。					
【中期計画記載事項】 国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。								
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行っている。また、これらの協力を通じて博物館等の関係者とのネットワークも形成に努めた。特に31年度開催のICOM京都大会に向けて委員会や会議などでも協力を進めた。31年度以降も引き続き各機関からの要請に基づき、可能な限り協力していく。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与 ②国内外の博物館等への援助・助言等							
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 2) 博物館・美術館および寺社等における展示・収蔵の安全対策に関する助言・研修会等を通じた啓発を行い、文化財等防災に貢献する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 野尻忠					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言は、71件あった。内訳は以下の通り。 ・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力（各種委員会等の委員としての助言を含む） 20件 ・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言 4件 ・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導 19件 ・講演・セミナー・審査等での協力 17件 ・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言 11件 2) 31年1月18日に、京都国立博物館・奈良文化財研究所と共催で第2回中部近畿文化財防災連絡会を主催し、行政の文化財担当者や博物館・美術館の防災担当者らと意見交換を行うことで、文化財防災の意識向上に役立てた。								
【補足事項】 1) ・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言（4件）には、東北歴史博物館で開催された特別展に学術協力し、現地での展示作業に従事した件や、クリーブランド美術館（アメリカ）で開催予定の特別展に協力した件を含む。 ・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導（19件）には、東大寺（奈良）や仁和寺（京都）の所蔵典籍・古文書の調査に協力し助言した件を含む。								
								
徳島県教委による文化財調査への協力（9/13）								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
援助・助言等の件数	71件	-	-		58	58	62	72
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 東北歴史博物館での「東大寺と東北」展への学術協力、クリーブランド美術館での特別展への協力など、国内外の博物館・美術館への援助・指導・助言を幅広く実施できた。それ以外の地方公共団体等への助言件数は例年並であり、年度計画は達成されたと評価できる。また、文化財等防災に関して、当館で実施した文化財防災連絡会には、多くの文化財担当者・防災参加者が参加し、意見交換による意識の向上及び人的ネットワークの形成に貢献できた。							
【中期計画記載事項】 国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 国内・国外、あるいは公立・私立の別や規模の大小を問わず、数多くの機関への援助・助言を実施できている。そのほか寺社等から文化財調査や保存について助言を求められることがあり、積極的に対応している。こうした活動は情報交換の推進、人的ネットワーク形成の観点から評価でき、今後さらに件数の増加に努める。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与 ②国内外の博物館等への援助・助言等							
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 2) 博物館・美術館および寺社等における展示・収蔵の安全対策に関する助言・研修会等を通じた啓発を行い、文化財等防災に貢献する。 (九州国立博物館) 1) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 2) 公私立博物館・美術館等職員のためのI P M (総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 小泉恵英					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 以下のとおり、公私立の博物館・美術館等に対する援助・助言を行い、年度計画どおり事業を実施できた。 ・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力(各種委員会等の委員としての助言を含む)(35件) ・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言(4件) ・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導(13件) ・講演・セミナー・審査等での協力(15件) ・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言(5件) 2) 文化財防災ネットワーク推進事業ワークショップを、熊本県教育庁文化課の協力を得て、奈良文化財研究所と共同で開催した。 (九州国立博物館) 1) 古文書保存基礎講座を開催した。(31年1月25日、26日) 2) I P Mセミナー、I P M研修及び館内向けI P M研修を実施した。 I P Mセミナーは、30年度はイギリスのV&A美術館からI P Mに関わる研究者を招聘し、国内の博物館等からも最新の知見について報告してもらう専門講座として開催した。 その他、ICOM-ASPAC日本会議2018を12月1日、2日に開催した。自然災害により被災した文化財の保護に博物館が果たす役割について、各国専門家による事例報告とパネルディスカッションを行い、活発な意見が交わされた。その成果は、日本会議2018「太宰府宣言」としてウェブサイトで公表した。								
【補足事項】 ・5月23日に、館内向けのI P M研修を実施した(会場:当館、受講人数:21人)。 ・10月24日にI P Mセミナーを開催した(会場:当館、参加人数:175人)。 ・10月25日～26日にI P M研修を実施した(会場:当館、受講人数:34人)。 ・7月12日に文化財防災ネットワーク推進事業ワークショップを開催した(会場:奈良文化財研究所、参加人数:4人)。 ・31年1月25・26日に福岡県教育委員会、筑紫野市歴史博物館と連携し、古文書保存基礎講座を開催した(当館、筑紫野市歴史博物館、参加人数:22人)。								
								
			10月26日 IPM研修の様子			7月12日実施の文化財防災ネットワーク推進事業ワークショップの様子		
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
援助・助言等の件数	72件	-	-		57	67	87	105
【年度計画に対する総合評価】 評定: B			【判定根拠、課題と対応】 関西以西の唯一の国立博物館として、九州地域だけでなく日本全国からの多くの問い合わせに対応した。また、文化財修理やI P Mなど当館の特色である事業の普及啓発について、連携機関等との協議をふまえて内容を吟味し、より良い研修を実施することができた。					
【中期計画記載事項】 国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。								
【中期計画に対する評価】 評定: B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従い、当館研究員の専門性を活かし国内外の博物館等からの要請に応じて指導、助言を行うとともに、新しい内容に更新しつつ研修会を開催するなど、地域の核としての博物館の役割を果たしている。毎年新しい内容を取り入れるなど、今後のニーズも見据えてこれからもセミナー、研修等を実施していきたい。					